

集解、狀大如雀而頭背翮上翠碧色、頰頷至臆下皆純黑、腹白、背羽尾脚蒼色、其聲圓滑清囀、官家籠中弄之、其味不佳、

〔和漢三才圖會四十三〕瑠璃鳥 碧鳥 俗云留里

按瑠璃鳥、狀大如雀、○中其聲圓滑清囀、如曰知與豆比知與豆比、畜之籠中弄之、

〔喚子鳥〕大○大○ 五がひ 生五七分、あをみ入、

大きき鶯に大ぶり、かしらより尾までるり色にて、むねくろくはら白し、さへづり高音にてよし、色鳥の第一にてうつくしき鳥なり、春のすゑにいつる、ふゆまたまれにあり、

同ひよころ 五がひ 右同斷

大るりの若鳥なり、總身ちやいろにうすぐろし、尾羽にすこしるりの色あり、

小○るり 五がい 生五壹分、あをみ入、

大きき鶯にて、總身大るりの色にこくるりいろなり、のどより腹まで白し、さへづりよし、春のすゑに出る、此鳥寒氣をいたみ、飼にくき類なり、

〔本朝食鑑六〕鵯○中

附錄○中 碧鳥 狀如雀而頭至臆、碧白、故名之乎、背翅尾皆赤、有黑斑、腹黑、黃相交、有斑、嘴脚俱黑、近世自外國來、官家畜之籠中、聲短不佳、惟弄美色耳、此亦白頭翁也、亦未詳、

〔本朝食鑑六〕華和異同、鳥鵯、碧鳥、

二禽俱不載、方書惟有白頭翁者、稍相似、王思茂三才圖會曰、有名白頭翁者、形似鵯、頰其飛似燕之頰、頭上有白毛、身蒼色、宋魏野有白頭翁詩甚佳、然則與二鳥殊矣、按魏野詩、有何辛苦有何愁、箇箇林間盡白頭、細葉累巢花影暖、微蟲共食竹陰秋、清音豈許黃鶯伏、素羽曾教白鷺羞、唯爾鬢毛應似我、相逢不用話因由、

〔百千鳥上〕碧鳥 餌がい 前同○キビ、モ、米、ア、ソ、

碧鳥